

The Tokyo Civet Times

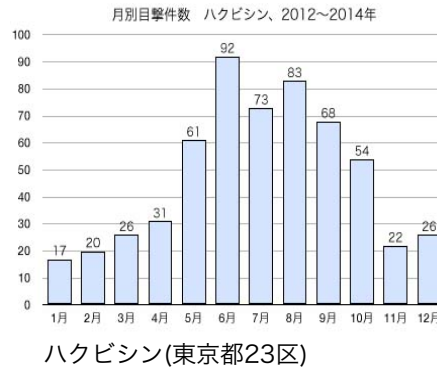
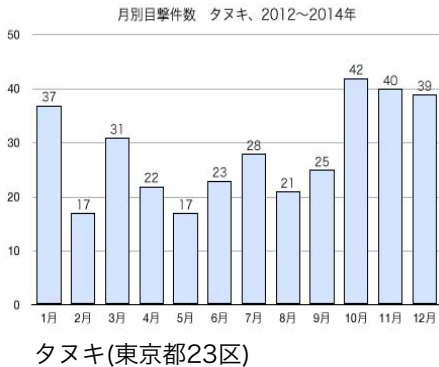
東京ハクビシンタイムズ

2015年4月号 通巻76号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンは冬眠してるのかも仮説 目撃情報数の季節変化はこれで説明できるか？



先月号と同じグラフでごめんなさい。
いずれも2012～2014年の合計です。
タヌキとハクビシンでは明らかに傾向が
違っています。これは何か重大な違いを
示しているのでしょうか思えないのです。

先月と同じような話題で申し訳ありません。ハクビシンの目撃情報がなぜ冬に少ないのか？上のグラフのように、タヌキに比べるとハクビシンは夏冬の差がかなりはっきりしています。やはり何か特別な要因があるのかもしれない、とずっと気になっていたのです。

冬眠を調べる難しさ

どんな図鑑や本を読んでも「ハクビシンは冬眠する」とは書かれていません。しかし、ひょっとしたらそうではないのかもと思ったのは雑誌「Newton」2015年4月号に掲載された「冬眠の不思議にせまろう」という記事を読んだからです。記事中に「シベリアシマリスのように、同じ環境に置かれた同じ種であっても、冬眠するものもいればしないものもいる」と書かれており、私の頭の中でハクビシンと冬眠が結びついたので。ハクビシンの中には冬眠する個体も、しない個体もいるのかもしれない。さらに、冬眠の期間も個体

差があるとするならば、ハクビシンの夏冬の目撃数の違いがうまく説明できるのではないのでしょうか。これを「ハクビシンは冬眠してるのかも仮説」(冬眠仮説)と名付けることにしましょう。

ハクビシンが冬眠するなんて話は誰も聞いたことがないかもしれませんが、それは誰も調べなかったからかもしれません。また、飼育して調べようとしても、クマのように飼育下(例えば動物園)では冬眠しない例もあります。ですので野生にいる個体を調査しなければなりません。

厳密に調査をするならば、複数頭のハクビシンに電波発信機やGPSロガー(位置情報記録装置)などを装着し、長期間(少なくとも1年間)追跡調査しなければなりません。これはかなり大がかりな調査になってしまい、私のリソースでは実現不可能です。

冬眠するにしてみせないにしてもその結果は非常に重要な意味を持ちます。誰か挑戦してみてください。

ちなみに食肉目の中で冬眠することが知られているのはツキノワグマ、

ヒグマ、アメリカクロクマ、ホッキョクグマ(以上はクマ科)、そしてアナグマ(イタチ科)だけです。

ニコニコ学会β、再び

さて、ここでお知らせです。4月25日、26日に開催される第8回ニコニコ学会βで宮本がポスターセッションに出展します。場所は幕張メッセのニコニコ超会議2015会場内(第9ホール)です。ポスター発表では重大発表もあります。ただし、ニコニコ超会議の入場券(有料)が必要になりますのでご注意ください。また、ニコニコ超会議は他にもさまざまなイベントが開催されます。詳しくはネット検索してみてください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの
情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>